

厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業
 多系統蛋白質症 (MSP) 患者の全国実態調査と診療体制構築に関する研究班
 分担研究報告書

骨パジェット病患者でリセドロネート治療開始以降の
 長期臨床像の縦断的把握

研究分担者 独立行政法人国立病院機構大阪南医療センター・統括診療部長 橋本淳

共同研究者 EA ファーマ株式会社メディカル部育薬情報グループ 新井幸

研究要旨 骨パジェット病患者でのリセドロネート高用量連日投与開始後の長期臨床像を把握し、この中で得られた臨床的エビデンスをもとに今後の診療体制向上を目指す。現在解析途上で、確定的な結果はまだであるが、本邦では希少疾患である本疾患 180 例以上での治療経過の情報は重要と考えて検討を進めている。

A. 研究目的

本邦で希少疾患である骨パジェット病患者でリセドロネート高用量連日投与後の長期臨床像の詳細を把握し、今後の診療体制の構築を目指す。

B. 研究方法

骨パジェット病治療薬の市販後長期前例調査の学術的指導を行い診療体制構築に必要な臨床的特徴を見出す。

(倫理面への配慮)

当施設がデータを扱うことはない。

C. 研究結果

骨パジェット病患者180名以上5年以上の経過のデータの解析途中であり、結果はまだである。

D. 考察

治療反応性は個人差が大きく、それに影響する因子が多数存在することが現時点で予想される。また骨パジェット病の骨以外の病態の情報が不十分であることが明らかとなった。

E. 結論

骨パジェット病の骨以外の病態に関する情報収集の必要がある。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

特になし

2. 学会発表

特になし

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得

特になし

2. 実用新案登録

特になし

3. その他

特になし